

# フィンテック最新事例

## 信頼と技術から生まれた貿易取引システムを地域の力で世界に

### 村式株式会社の事例から

湘南信用金庫 経営企画部 新井 稲二

#### はじめに

昨今、金融と情報技術の融合によるフィンテック分野が注目され、多く話題に上っているのは大企業の取り組みである。しかし、そもそも新しい分野・市場が出現しているのであれば、

中小企業も活躍すべき分野であるだろう。仮に中小企業が活躍する市場であれば、それを支援する機関が必要であり、私たち信用金庫の支援を求めている企業も潜在的に存在しているはずである。当金庫は、鎌倉に本社を構える村式株式会社（以下、村式）を支援している。本稿では、同社が開発した「&g;o」(ブロックチェーン技術を利用した貿易決済サポートシステム)について、当金庫がどのような支援活動を行っているかを紹介する。

なお、本例は信金中央金庫地域・中小企業研究所「産業企業

情報」(2013)および、「信金中央金庫月報」(2017年10月号)の「実用化に向けて期待高まる『ブロックチェーン』技術―貿易金融でのブロックチェーン技術の応用への挑戦―」においても紹介された。

#### 鎌倉市における湘南信用金庫の役割

当金庫は、鎌倉市内に拠点を置く唯一の信用金庫であり、その歴史は昭和25年8月に創立した鎌倉信用金庫に由来する。平成元年7月に横須賀信用金庫と合併し、湘南信用金庫となるまで鎌倉を中心に活動していた。現在も、鎌倉市内に5店舗を構える。

鎌倉市は、三浦半島の西側、湘南エリアに位置しており、鎌倉幕府が置かれていた歴史ある都市である。そのため、歴史情緒の感じられる観光施設等が多

く、鎌倉市によれば年間2千万人を超える観光客が訪れる、全国でも有数の観光地である。隣には神奈川県最大の都市・横浜市があり、また、JR横須賀線で東京駅まで約1時間と、ベッドタウンとしての一面も兼ね備える。昨今、鎌倉周辺に居を構える経営者の中には、横浜・東京から近いという理由で、会社自体を鎌倉市内に移転する事例が多く見られるようになった。特に、情報通信業関係の企業はインターネットに接続できる環境があればよく、移転需要は年々高まっているように感じられる。

一方で、鎌倉市は観光地と住宅地が混在しており、大規模なオフィスビルを建設することができないため、ある程度の規模に成長すると周辺の大都市に移転してしまうという課題も存在する。そのため、市内企業が多くが比較的小規模な企業であるということも、同市の特徴の1

つとして挙げられる。

## 創業スクールを機に 広がった支援・交流

村式と当金庫とは、当初、預金のみ取引であった。この関係が大きく変わったのは、産業競争力強化法に基づく特定創業支援事業として実施した「鎌倉創業応援特別セミナー」（以下、創業スクール）において、同社の代表取締役である住吉優氏（以下、住吉社長）に外部講師として登壇を依頼したことが発端だった。この産業競争力強化法に基づいたスキームは、他金庫も地元自治体等と協力して実施していると思われるため、詳細は割愛する。鎌倉市では、鎌倉商工会議所と当金庫が主体となり創業スクールを毎年夏に実施しており、市内で事業を始めたかと考えている多くの方にご参加いただいている。

その後、取引店舗である鎌倉営業部の渉外担当者にも「相談したいことがあり、本部の方にも聞いてもらいたい」と要望があり、当時、営業統括本部に所属していた筆者と渉外担当者で訪問することとなった。住吉社長からの案件は、「現在、海外との貿易取引全般において多くの課題があり、これを簡便にするためのシステム構築を考えている。協力してもらえないだろうか」というものであった。

村式は、すでに経済産業省「平成28年度 技術協力活用型・新興国市場開拓事業費補助金」にも採択されており、このシステムが成功すれば、中小企業が海外と取引する際のハードルが下がり、事業の幅が広がるなど効果は大きいと判断し、支援活動を開始することとなった。

具体的な支援内容は、①海外企業との取引を行うにあたり、潜在的な需要があるかを知るための当金庫の取引先に対するイ

### 「鎌倉創業応援特別セミナー」のご案内チラシ

鎌倉市特定創業支援事業  
参加無料!!  
申込者様  
鎌倉 創業応援特別セミナー  
創業いざ鎌倉!  
オール鎌倉で目指す4日間

特別講師は  
住吉優氏「鎌倉いんど」代表取締役  
村式信太郎「村式」代表取締役  
元住吉優氏「住吉」代表取締役

講師陣は  
神奈川県上アズ支援拠点の  
コーディネーター等

セミナー講師陣は  
住吉優氏、村式信太郎、山崎信也、井上真由子、金澤 勇、藤村興子

対象者 ● 鎌倉市内で創業を考えている方 ● 鎌倉商工会議所 301会議室  
● 創業間もない方 ● 参加申込 講座の申込書に必要事項をご記入の上、FAXメールにてお申し込みください

| 日程  | 7/14 [木]                               | 7/21 [木]                      | 7/28 [木]                      | 8/4 [木]                       |
|-----|--|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 時間  | 18:30-19:30                            | 19:30-20:30                   | 18:30-20:30                   | 18:30-20:30                   |
| テーマ | 起業力アップ<br>創業準備講座<br>成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ | 成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ | 成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ | 成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ<br>成功事例に学ぶ |
| 講師  | 住吉優氏<br>山崎信也                           | 住吉優氏<br>山崎信也                  | 住吉優氏<br>山崎信也                  | 住吉優氏<br>山崎信也                  |

主催 鎌倉商工会議所・技術活用推進 共催 公益財団法人神奈川県創業支援センター 後援 神奈川県、おなびのり小企業支援プラットフォーム

「創業へいざ鎌倉!」をコンセプトに、テーマごとに講師を招き4日間かけて開催した

ンタビュー調査（海外取引を希望している先の紹介）、②新システム開発に必要な資金調達のための融資は当然とし、出資を含めた支援の検討、③システム開発以外の本業部分における支援（他の情報通信業者の紹介等）、④信金中央金庫海外業務支援部と連携した支援（海外展開への様々な支援）等が挙げられる。さらに、今後はビジネスマッチングといった新たな支援も準備



住吉社長が講義する「鎌倉創業応援特別セミナー」

している。

また、当金庫としてもブロックチェーン技術等について理解する必要があり、鎌倉商工会議所と定期的に実施している勉強会に住吉社長を講師としてお招きし、ブロックチェーン技術についての講義をしていただいた。これをきっかけに、鎌倉商工会議所とフィンテックへの対応について緊密な情報交換の場が生まれるなど、フィンテックを中心とする交流は広がりを見せている。

### 「&go」が生まれた背景と今後の展開

「&go」が開発されたのは、以下のような背景がある。現在、貿易は完了するまでに様々な課題を乗り越えなければならぬ。例えば、現地ニーズの把握、物流、関税、相手国の法律対処等の貿易実務、決済等々、多くの分野

で専門知識が必要である。経験のない経営者にとつては、都度、専門家による支援が必要であり、時間がかかる上に費用も多額になってしまいうことが障害となっている。そのため、海外展開に興味はあるが躊躇してしまいうケースが多い。「&go」のシステム開発は、

図1 「&go」の試用運用中の参考画面と機能一覧



【基本機能】

- アカウント作成
- BTC交換所つなぎこみ
- 為替レート確認
- BTC価格レート確認
- 暗号通貨トランスファー指示
- 取引レートシミュレート

【コミュニケーション】

- チャット相手の検索
- チャット/ビデオチャット
- ファイル送付

【マイページ】

- 取引履歴参照
- 取引状態ステータス取得
- ウォレットの管理
- ユーザー評価
- マイページ-公開

【対応端末とブラウザ】

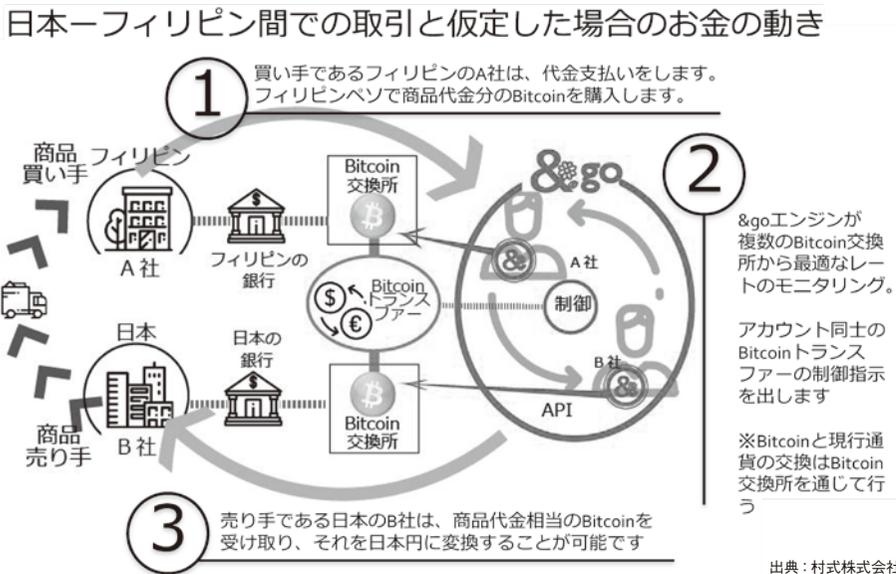
スマートフォン (iOS/Android)  
搭載の標準ブラウザ

Win / Mac等のPC上のブラウザ

- Edge ver.xxx
- Chrome 最新版
- Firefox最新版
- Safari最新版

出典：村式株式会社

図2 「&go」の貿易決済機能の仕組み



これらの貿易取引を商談から決済まで一気に完了させてしまおうという企画から始まった。しかし、これらの機能をすべて盛り込んだ場合、開発費だけで数億円がかかってしまう。そのため、まずは機能を①海外企業とのコミュニケーションツール、②貿易決済サポートの2つに絞り込んだ。なお、「&g o」が軌道に乗った際は、ほかの機能拡充を進める予定である(図1)。

2つの機能の特徴をそれぞれ説明すると、①はチャット形式で進めるため、リアルタイムで商談が可能である。特に、商談を進める上で課題である言語についても、英語への自動翻訳機能を盛り込んでおり、ファイル送付やビデオ通話機能も可能であるため、円滑な商談が可能である。②貿易決済機能においては、ビットコインに一時的に変換する点特徴だ。利点として、着金スピードの速さと手数料の

低減であろう。実証実験に参加した企業からも、スピードについては好評だったという(図2)。

現在、「&g o」の対象国はフィリピン、韓国、シンガポールと限定されている。これは、相手国の法整備等の状況からであり、例えば中国ではビットコインの利用は禁止されているため利用できない。また、当面は東南アジアを中心に展開するが、利用者の増加により対象国も増やす予定だ。

また、貿易相手である海外事業者は、パソコンを持たずスマートフォンのみを活用している場合も多い。このため、スマートフォン用アプリを提供することで、利便性を高めている。

### 未来に向けた金庫基盤に求められるものとは

本件の支援にあたり、周囲から頻繁に聞かれたのが新しい分

野への警戒感や否定的な意見である。

確かに、貿易決済(外国為替)は金融機関にとって手数料収入を得るための重要な分野であり、実際にこの分野において収益を得ている金庫もあると認識している。しかし、決済の速さ、事務の単純化といった利用者から見た「手軽さ」で比較した場合、「&g o」が有利であることは明白である。仮に「&g o」が浸透しなかったとしても、未来に同様のシステムが普及することは容易に想像できる。そうなれば、利便性が高く、手数料の安いシステムや、それを運用する金融機関を選択する企業が多数現れても不思議ではない。実際、

すでに日本―韓国間においてブロックチェーン技術を活用した送金実験を始めた金融機関もあり、我々の業界もどのように対応するべきか、検討する時期に来ているのではないだろうか。

つまり、いかにして新たな分野に参入し、迅速に新たな取り組みを進めることができるかが重要だ。当金庫も、フィンテックへの対応は手探りの状態が続いている。しかし、「お客さまを支援するために追求する」という理念の核心部分については、従来からの支援態勢と大きく変わることはない。

前身の鎌倉信用金庫の基本方針「地元中小企業と市民皆さまの繁栄のため」と、湘南信用金庫の行動指針「靴底を減らし、耳を傾け、汗を流し、そして知恵を絞る」を心に刻みつつ、地域に寄り添うパートナーとして、さらなる支援能力の向上をめざしたい。

最後に、村式の支援には、鎌倉商工会議所、信金キャピタル(株)、信金中央金庫の協力を多方面から得ており、これら連携機関の協力に感謝を述べつつ、事例紹介を終える。